

城西人文研究 既刊総目次

創刊号 (1973年)

序	武 市 春 男
『城西人文研究』の創刊に際して	蒔 田 栄 一
ニーチェとキリスト教倫理	木 阪 昌 知
マヤの石造建築における「持送りアーチ」について	貞 末 堯 司
意味と認識	
——パース研究(4)——	西 勝 忠 男
シーハラヴァットパカラナ訳註(Ⅱ)	
——第1章 第3・4・5話——	森 祖 道
独白と対話	
——ジョイスとペローの距離——	茂 呂 公 一
ポーにおけるグロテスクとアラベスク	水 田 宗 子
内村鑑三おぼえ書き(その八)	岩 谷 元 輝
人間の社会的構造と疎外	松 浦 孝 作
『靈魂の系図』について	
——Carlyle を中心として——	松 田 福 松
カフカの世界	
——非ユダヤ的ユダヤ人——	山 口 勲

第2号——蒔田栄一教授追悼論文集—— (1974年)

巻 頭 言	武 市 春 男
バスク語の単文における語順の文体的価値について	堀 田 郷 弘
内村鑑三おぼえ書(その九)	岩 谷 元 輝
精神病理学的立場からみたニーチェ思想の枠構造(1)	木 阪 昌 知
『サムラー氏の惑星』試論	森 哲 夫
「キリスト者貴族に与う」にみられるルターの思想考	太 田 広
宗教史にみる日本的均衡のメカニズム(Ⅳ)	
——マーケティングと宗教の関連において——	渡 辺 好 章
遠近法と身体性について	山 口 勲
同一性(アイデンティティ)に関する諸問題——その一——	帆 足 喜与子

涼袋稿『風雅艶談』浮舟部——翻刻——	黄色	瑞華
「紙」以前の書写の用材について	井口	大介
故蒔田栄一教授 追悼	松田	福松
ああ蒔田栄一先生よ	伊部	政一

第3号——城西大学開学十周年記念論文集——（1975年）

アンデス古代文明の諸問題	貞末	堯司
発見の哲学——パース研究（6）——	西勝	忠男
首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成 ——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較——	田村	正夫
鉄齋と華山	小野	浩
日本民主主義研究序論	森田	昌幸
遠近法と身体性——その哲学的意味——	山口	勲
Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women in Sylvia Plath's <i>The Bell Jar</i> and Joan Didion's <i>Play It As It Lays</i>	水田	宗子
『おらが春』の素材	黄色	瑞華
日本におけるアンドレ・マルロー受容 ——1941年（昭16）まで——	堀田	郷弘
ジェイムズ・ジョイス研究——造形への意識——	茂呂	公一
作品とその批評 —— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere”——	萩原	博子
司馬遷論	黒羽	英男
三代日本主義の系譜について	松田	福松

第4号（1977年）

論理の自律性について——パース研究（7）——	西勝	忠男
カントの「定言命法」	山口	勲
中央アメリカの考古学史 ——先コロンブス期文化の研究を中心とした——	貞末	堯司
クレアラ・アン・ペイター覚え書	萩原	博子
『教育者としてのショーペンハウアー』から ——ニーチェと自然——	河内	信弘
アンドレ・マルローと日本行動主義文学運動	堀田	郷弘

アンドレ・ジッドの方法（Ⅱ）——生命の美学——	陶	山	曉
冷たき牧歌			
——キーツの『ギリシャの壺の賦』によせて——	永	井	豊 実
『おらが春』の素材（続）	黄	色	瑞 華
歌人「安江不空」	小	野	浩

第5号（1978年）

南アメリカの考古学史	貞	末	堯 司
Manorathapūrani 源泉資料年代論	森		祖 道
大学英語教育の問題点（上）	鮫	島	久 男
クレアラ・アン・ペイター覚え書（Ⅱ）	萩	原	博 子
『シンペリン』 皮肉な遊戯	戸	所	宏 之
カフカ研究の視座を求めて	山	口	勲
東京日仏会館開館式におけるマルロー氏の演説(1960年2月22日) と東京羽田空港におけるインタビュー（2月29日）	堀	田	郷 弘
アンドレ・ジッドの方法（Ⅲ）	陶	山	曉
ニーチェと自然（一）	河	内	信 弘
『おらが春』第一話の設定をめぐって	黄	色	瑞 華

第6号（1979年）

ヴィトゲンシュタインの思想を理解するために	山	口	勲
パーソナリティテストとしての SCT に関する一考察			
——特に応用とその解釈をめぐって——	駒	崎	勉
ジェイムズ・ジョイスの手法について（Ⅰ）			
——我国におけるジョイス評価の推移——	茂	呂	公 一
A Textual History of Walter Pater's <i>Renaissance</i>			Hiroko Hagiwara
マクベスの意識構造——「運命」「眠り」「時」——	小	野	昌
ニーチェと自然（二）——『悲劇の誕生』——	河	内	信 弘
全集本『おらが春』について	黄	色	瑞 華

第7号（1980年）

ヤスパースとフッサール			
——精神病理学の哲学的基礎——	山	口	勲

PANTUN—puisi dan puisi rupa—	黄色 瑞 華
国際水利法に関する一考察	土 屋 生
ジェイムズ・ジョイスの手法について (II)	
——我国におけるジョイス評価の推移——	茂 呂 公 一
The Development of the Audiolingual Approach	
——Trends in Language Methodology in the United States——	
	Fumiko Tamura
『空騒ぎ』の冥と光——偽りの力学——	戸 所 宏 之
「エンディミオン」における映像のあり方	永 井 豊 実
『ヴェニスの商人』における Venture について	小 野 昌
カミュとニーチェ——『異邦人』と〈神の死〉——	村 岡 正 明
アンドレ・ジッドの方法 (IV)——生命の美学——	陶 山 曠
「騎士と死神と悪魔」	
——『悲劇の誕生』におけるデューラーの銅版画をめぐる——	
	河 内 信 弘

第 8 号 (1981年)

ヴィトゲンシュタインのケムブリッジ	山 口 勲
アメリカ文化論 (I)	小松 光・金勝 久・茂呂公一・黒沢順三
シャルル・モーロンの「精神批評」(1)	越坂部 則 道
「高き山々の頂きから」	
——『善悪の彼岸』に添えられた詩に関する一つの試み——	河 内 信 弘
思想家としてのニーチェ	小 野 浩
『四山藁』の俳論	黄 色 瑞 華

第 9 号 (1982年)

アメリカ文化論 (II)	金 勝 久
ジョイスのパドバ・エッセイについて	茂 呂 公 一
アンドレ・マルローの最初の美術論	
《La Peinture de Galanis》(1922) について	
——マルローの初期の美術論の研究(前)——	堀 田 郷 弘
シャルル・モーロンの「精神批評」(2)	越坂部 則 道
教育場面における夢の活用 (I)	
——その背景としてのフロイトとユング——	細 部 国 明

身・語・意の三業 (tīṇi kammāni) と carita, saṅkhāra, samācāra	池田 練太郎
詩的コスモゴニーへの論理 ——ランボー詩の内的世界——	川那部 保 明
ハイデガー先生の想ひ出.....	小 野 浩
〔研究ノート〕	
俳諧連歌における謡曲の文句取り (一)	黄 色 瑞 華

第10号 (1983年)

ヴィトゲンシュタイン：太洋の測量技師 ——逆限定のバトス——	山 口 勲
アメリカ文化論 (Ⅲ)	金 勝 久
ジョイスのディケンズ・エッセイについて.....	茂 呂 公 一
教育場面における夢の活用 (Ⅱ) ——夢と宗教——	細 部 国 明
Zur Entwicklung der deutschen Sprache in der DDR	Kuniomi Uchimura
『失われた時を求めて』における作中人物の出現と 話者のまなざし.....	北川原 哲 夫
カミュと〈他者〉.....	村 岡 正 明
〔書 評〕	
(Ⅰ) LE DASAVATTHUPPAKARANA Édité et traduit par Jacqueline VER EECKE	
(Ⅱ) LE SĪHALAVATTHUPPAKARANA Texte pāli et traduction par Jacqueline VER EECKE	森 祖 道
〔研究ノート〕	
渭浜庵執筆一茶.....	黄 色 瑞 華

第11号 (1984年)

〈人間=記号〉論について.....	西 勝 忠 男
教育場面における夢の活用 (Ⅲ) ——ユングの宗教夢解釈に対するフロムの批判——	細 部 国 明

Erühneuhochdeutsch und Buchdruckerkunst-III.

Die Herausbildung der (verbalen) Satzklammer……藤 井 明 彦
 Didaktische Probleme des Geschichtsunterrichts in den
 sozialistischen Ländern am Beispiel der UdSSR……Stefan Wundt
 知と自我

——初期シェリング哲学の原理について——……………小 林 保 則
 歌人 安江不空……………小 野 浩
 『我春集』の序文をめぐる……………黄 色 瑞 華

第12号(1985年)

ロンゴバルディ侵住建国をめぐる諸問題

——イタリア民族形成史の一コマ——……………森 田 鉄 郎
 教育場面における夢の活用(IV)

——ユングの宗教夢解釈に対するボスの批判——……………細 部 国 明
 ベン・ジョンソンの男性的雄弁の美学

——*Timber* の詩論を通じてジョンソンの詩を読む——……………平 松 哲 司
 Die Kommunistische Erziehung und ihre

Wertvorstellungen……………Stefan Wundt
 シャルル・モーロンの「精神批評」(3)……………越坂部 則 道

『我春集』から『株番』へ……………黄 色 瑞 華
 [研究ノート]

農村集落における精神的ムラ境の諸相

——茨城県桜村における虫送りと道切りを事例として——……………小 口 千 明
 ヴァイマル憲法制定国民議会における裁判官の審査権

——「ヴァイマル憲法下の裁判官の審査権」研究序説——……………畑 尻 剛
 グスターフ・フライタークの〈Soll und Haben〉……………鈴 木 敏 夫

第13号(1986年)

巻 頭 言……………石 南 國
 “鏡”の論理から“魂”の論理へ

——人間記号論序説——……………西 勝 忠 男
 北欧中世(スウェーデン)における自力救済慣行

——実力社会の一考察——……………伏 島 正 義
 潮湯の偏在性に関する地理学的予察

——日本における海水浴普及との関連から——……………小 口 千 明

ジョイスの“Exiles”における受難の思想について……………	茂 呂 公 一
Eloisa と Belinda の相違……………	石 川 郁 二
状態動詞・完了形・進行形・状態受動態に 見られる共通特性……………	鎌 田 精三郎
R. Huch の〈スイスの春〉覚え書 ——研究ノート——……………	鈴 木 敏 夫
J. ヴァイスヴァイラーの Seele の語源説をめぐって……………	藤 井 明 彦
ヴァージニア・ウルフ『燈台へ』における視点と 人物描写について……………	飯 塚 英 一
エアリエルの材源再考……………	門 野 泉
パトナム、シドニーの <i>sprezzatura</i> 精神 ——宮廷世界の美学と「ルネサンス・ ヒューマニズム」の対峙——……………	平 松 哲 司
The Dimensions of the U.S.—Japanese Cultural Conflicts Underlying the Trade Issue……………	古 川 友 章
神話概念の変遷Ⅱ ——翻訳語としての『神話』をめぐって（上）——……………	天 沼 春 樹
自己言及のかたち ——『イリュミナシオン』『生活Ⅲ』と「生活Ⅰ」を読む——……………	新 宅 巖
フロベールにおける登場人物と場面……………	大久保 政 憲
『息 子』……………	アルトゥール・シュニッツラー
——翻 訳——……………	春 日 正 男
『バシュラールと過したひと夏』とその研究Ⅰ……………	越坂部 則 道
アンドレ・ジッドの方法（Ⅵ）……………	陶 山 暎
アンドレ・マルロー「ルオーの新作についての覚書—— 絵画における悲劇的表現をめぐって」の翻訳と解題……………	堀 田 郷 弘
「シルス・マリーア」をめぐって……………	河 内 信 弘
日中戦争開戦当初における対植民地・「満州」米政策……………	大豆生田 稔
歌人 安江不空・序(3) ——大和歌の問題——……………	小 野 浩
『志多良』の序文をめぐって……………	黄 色 瑞 華
高橋克巳論——虚無僧のパトス——……………	山 口 勲

第 14 号 (1987年)

Mahāsivatthera as Seen in the Pāli Aṭṭhakathās……………	Sodō Mori
---	-----------

キーツの『秋に寄せて』(二)

——第2連の情景——……………永井豊実

坪内逍遙とシェイクスピア

——帝劇『ハムレット』をめぐる——……………小野昌

TENSE and TIME in English ……………Seizaburo Kamata

コシンスキーの『自己芸術』: *Steps* をめぐって ……………繁田眞弓

Kajii Motojiros “Fliegen im Winter” ……………Stefan Wundt

E. T. A. ホフマン『さびれた家』

——作話技術を中心に——……………齊藤洋

バルザックの小説の提示部について……………佐野栄一

〔研究ノート〕

ニーチェにおける詩人

——ニーチェの詩の理解のために——……………河内信弘

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(一)……………黄色瑞華

イエイツの「一エーカーの草地」について

——〈悟り〉か〈狂気〉か——……………小堀隆司

アポリネールの恋の詩と真実……………堀田郷弘

第15巻 第1号 (1987年)

推論の妥当性から〈魂〉の論理性へ……………西勝忠男

“Elegy to the Memory of an Unfortunate

Lady” と “Eloisa to Abelard”……………石川郁二

Faerie Queene, Book Iにおける「光」と「闇」……………古川啓二

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(二)……………黄色瑞華

「松のひびき波をしらぶ」考……………安保博史

イエイツ「マイケル・ロバーツの二重の幻想」について

——幻滅の狡智——……………小堀隆司

第15巻 第2号 (1987年)

A Study of the *Sihalavaththuppakarana* ……………Sodō Mori

The Acquisition of English and the

Learner's Attitude

——Motivation vs. Ego Boundary——……………Fumiko Tamura

James Joyce の “Exiles” と芥川龍之介の

『藪の中』との類縁性(1)

- 人物像を中心にして—— 茂 呂 公 一
- 結婚で終わらない喜劇, *Love's Labour's Lost* の構造 小 野 昌
- テオドア・フォンターネ: グスタフ・フライタークの
 <借り方と貸し方> (試訳) 鈴 木 敏 夫
- ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』
 におけるマカーリエ神話 荻 野 静 男
- 神話概念の変遷 I
 ——Mythos の語史に関して (上)—— 天 沼 春 樹
- ニーチェにおける夕
 ——詩人としてのニーチェ—— 河 内 信 弘
- [研究ノート]
- 井泉水編『一茶俳句集』の句(三) 黄 色 瑞 華

第16巻 第1号 (1988年)

 ジョイスの “Exiles” と芥川の『藪の中』に
 おける卍巴模様の構造と、真相の曖昧さの
 意味について

- ジョイス受容史への加筆の試み—— 茂 呂 公 一
- カミュの「無差異」について 村 岡 正 明
- Dostoevskij の小説における思想上の傾向 シュテファン・ヴント
- イエイツ「ビザンチウムへの船出」について
 ——聖なる彼方の詭計—— 小 堀 隆 司
- パシュラルの死をめぐる
 ——『パシュラルと過したひと夏』とその研究 II —— 越坂部 則 道
- ニーチェにおける第七の孤独 河 内 信 弘
- [研究ノート]
- 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(四) 黄 色 瑞 華

第16巻 第2号 (1988年)

ワーグナーの楽劇『トリスタンとイゾルデ』

- 《死の薬》をめぐる—— 春 日 正 男
- 『結婚の生理学』におけるバルザックの政治
 と文学の問題 佐 野 栄 一

イエイツの「塔」について

——反復としての回想——小 堀 隆 司

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(五).....黄 色 瑞 華

第17巻 第1号 (1989年)

The Value of the Pāli Commentaries as

Research MaterialSodō Mori

Eloisa は幸福を手に入れるか

——*An Essay on Man* を基にして——石 川 郁 二

西ベルリンと国際関係

——ドイツ人のベルリン報告——シュテファン・ブント

Zur Erzählstruktur in Kafkas

《Von den Gleichnissen》Tetsuo Kotani

ディオニュソス酔歌（翻訳）河 内 信 弘

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(六).....黄 色 瑞 華

会員消息欄

第17巻 第2号 (1990年)

乳児の発達細 部 国 明

モーツァルトの『魔笛』

——オペラにおける教養小説——春 日 正 男

A Review of Tesl MethodsJohn Parsons

"詩的に" 考える

——ハイデッガーの作品『思い出』における

考えることの本質への問い——高 島 明

イエイツ『鷹の井戸』

——転生のための不可能性——小 堀 隆 司

一人称のバシュラール

——『バシュラールと過ごしたひと夏』とその研究Ⅲ越坂部 則 道

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(七).....黄 色 瑞 華